

## 乳幼児期に気をつけたい感染症



子どもは病気にかかりながら、徐々に抵抗力を身につけ、丈夫な身体になっていきます。感染症に繰り返しかかるのは、子どもの成長過程で必要なことでもあります。ただし、重症化しやすい感染症もあります。感染症にかかった時は、症状をよく観察し、適切な受診をしましょう。

病名・潜伏期間	感染経路	感染力のある期間	症状	外出を避けたい期間	手当て	予防接種
麻疹 (はしか) 8～12日前後	空気感染 飛まつ感染 接触感染	発熱する1～2日前から、発疹が出てから4日間	① カタル期：38℃前後の高熱、せき、鼻水、結膜充血、熱が一時下がる頃、頬の内側に白い斑点(コプリック斑)が出る。 ② 発疹期：一時下がった熱が再び高くなり発疹が現れる。 ③ 回復期：熱が下がり発疹は色素沈着を残して消える。	解熱後3日を経過するまで	有効な薬がないので、症状に応じて、解熱剤や鎮痛剤を使う。合併症の恐れがあるときは抗生物質が使われる。高熱が出て体力を消耗するので家庭では静かな部屋で寝かせ安静にする。水分補給には十分留意する・カタル期は感染力が強いため、他の子どもとの接触は避ける。	MR(麻疹・風しん)混合ワクチン 定期予防接種 (指定医療機で個別接種する)  第1期 1歳～2歳未満 第2期 小学校就学前1年の間
風しん (3日はしか) 16～18日前後	飛まつ感染	発疹の出る前7日から、発疹が出てから14日間位	発熱は一般に軽い。淡紅色の発疹が顔→体幹→全身に現れる。耳の後ろや首のリンパ節がはれる。	発疹が消えるまで	風しんだとわかったら家庭で安静にしている。	
水痘 (水ぼうそう) 14～16日前後	空気感染 飛まつ感染 接触感染	発疹が出る1～2日前から、すべての発疹がかさぶたになるまで	発疹は体幹から全身に広がる。紅斑は丘疹、水疱、かさぶたの順に変化する。種々の段階の発疹が同時に混在する。発疹はかゆみが強い。	すべての発疹がかさぶたになるまで	非常にかゆみが強いのが特徴なので、かゆみを感じさせないように室温や衣服を加減して暑すぎないようにし、爪を短く切り、手を清潔にしておく。	定期予防接種 1歳～3歳未満 6か月～12か月の間隔で2回接種
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) 16～18日前後	飛まつ感染 接触感染	耳下腺が腫れる前7日～後9日	発熱、耳下腺のはれと痛み、発症3日目頃腫れは最大になる。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫れが出てから5日を経過し、全身状態がよくなるまで	痛みが取れるまでは安静にし、頭を冷やしたりする。口を開けたり嘔吐と痛み、食欲がなくなるので消化のよいものを与える。	任意予防接種
突発性発疹 約10日	飛まつ感染 経口感染 接触感染	感染力は弱いですが、発熱中は感染力がある。	突然38～39度くらいの高熱が出て、3～7日続く。熱が下がると、小さな赤い発疹が体幹に出て、1～2日後痕を残さず消える。生後6ヶ月～2歳前後に多い。	解熱後1日以上経過し全身状態が良くなるまで	家庭で安静にし、水分補給に留意する。あまり心配のいらぬ病気だが、高熱により熱性けいれんを起こすことがあるので注意する。	ワクチンなし
手足口病 3～6日	飛まつ感染 経口感染 接触感染	せきや鼻水から1～2週間 便からは数週～数ヶ月間	手のひらや足の裏、口の中の粘膜に水疱様の発疹ができる。発疹は7～10日で痕を残さず治る。発熱を伴うこともある。夏季に流行する。	症状が消えるまで	口の中の水疱による痛みのため食事が食べられないことがある。やわらかく刺激のない食べやすいものを与える。	ワクチンなし

インフルエンザ 1～4日 平均2日	飛まつ感染 接触感染 空気感染	症状が出る1日前から、発症後2～5日まで	突然の高熱が3～4日間続く。頭痛、悪寒、筋肉痛、鼻閉、せき、腹痛、食欲不振、全身倦怠感等の症状を伴う。	症状が出てから5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで (幼児にあっては、3日)	安静にし室内の保温と保湿に気をつける。特に発熱、下痢、おう吐のひどい時には水分を十分取るように気をつける。感染初期からの治療により早く回復するので早期受診をする。	任意予防接種
伝染性膿痂疹 (とびひ) 2～10日 長期の場合もある	接触感染	化膿しているとき	淡黄色の水疱から始まり膿疱になる。すり傷、虫刺され、あせも等を掻きこわした部分に細菌が感染し起こる。	炎症があるとき	治療をきちんと受ける。 爪は短く切り、掻きこわしによる感染の拡大を防ぐ。	ワクチンなし
伝染性軟属腫 (水いぼ) 2～7週 時に6か月まで	接触感染	いぼが出ているとき	1～3mmの真珠様の白色またはピンク色の丘疹。中央にくぼみがある。	なし(ただし患部から滲出液が出ている時は保護する)	6～12か月で自然治癒。または、塗り薬の使用、皮膚科等でいぼを取ることもある。	ワクチンなし
咽頭結膜熱 (プール熱) 2～14日	飛まつ感染 接触感染 (主にプールで感染)	症状が出てから数日感染力が強い。(数ヶ月排泄が続くこともある。)	39～40度くらいの発熱、のどのはれと痛み、白目部分の充血、熱は3～4日続き、せきが出たり腹痛、下痢を起こす。	症状が消えて2日を過ぎるまで	感染力の強いウイルスのため、まめに手洗いをしたり、タオルは専用のものを使用する。 水分補給に注意する。	ワクチンなし
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) 1～3日 (ノロウイルス) 12～48時間	飛まつ感染 経口感染 接触感染	症状がある期間 ※症状が消失した後も1ヶ月程度ウイルスが排泄される。	発熱、鼻水、せきなどの風邪症状、おう吐、下痢。ロタウイルスは、便が白くなることもある。	症状が消えるまで	症状は4～5日で落ち着くが、下痢の時は脱水症状に気をつける。	ロタウイルスは任意予防接種 ノロウイルスはワクチンなし
溶連菌感染症 2～5日	飛まつ感染 接触感染	症状がある期間 ※適切な抗菌薬を内服後24時間経過するまで	発熱し、のどが赤くなって痛み、扁桃腺がはれる。舌に赤いぶつぶつができる。体全体にできる場合もある。	抗菌薬内服後24～48時間を経過するまで	治療をきちんと受けないと再発したり、合併症をおこすことがあるので、主治医の指示に従って治療する。	ワクチンなし
マイコプラズマ肺炎 2～3週間後	飛まつ感染 接触感染	症状発症時が最も感染力が強い。数週～数か月保菌する。	発熱と軽いせきで始まり、せきは徐々に強くなる。頭痛、のどの痛み、腹痛を伴うこともある。1週間前後で熱は下がるが、咳は1ヶ月程度続く。	主症状が消えるまで	ひどいせきが3～4日以上続いたら早めに受診する。	ワクチンなし
RSウイルス感染症 4～6日前後	飛まつ感染 接触感染	通常3～8日間 ※乳幼児では3～4週間	発熱、鼻水、せき、ゼイゼイとした呼吸、呼吸困難	呼吸器症状が消え、全身状態がよくなるまで	生後6ヶ月未満では重症化しやすく、入院が必要になる場合があるので、症状がある場合は早めに受診する。 	早産児、先天性心疾患、慢性肺疾患を持つ乳幼児は重症化することがあるため、流行時にシナジスを注射

《参考資料》日本小児科学会「(2013年9月改定) 学校・幼稚園・保育所において予防すべき感染症の解説」/ 厚生労働省「2012年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」  
厚生労働省「ノロウイルスに関するQ&A」 / 東京都「感染症マニュアル2009」